

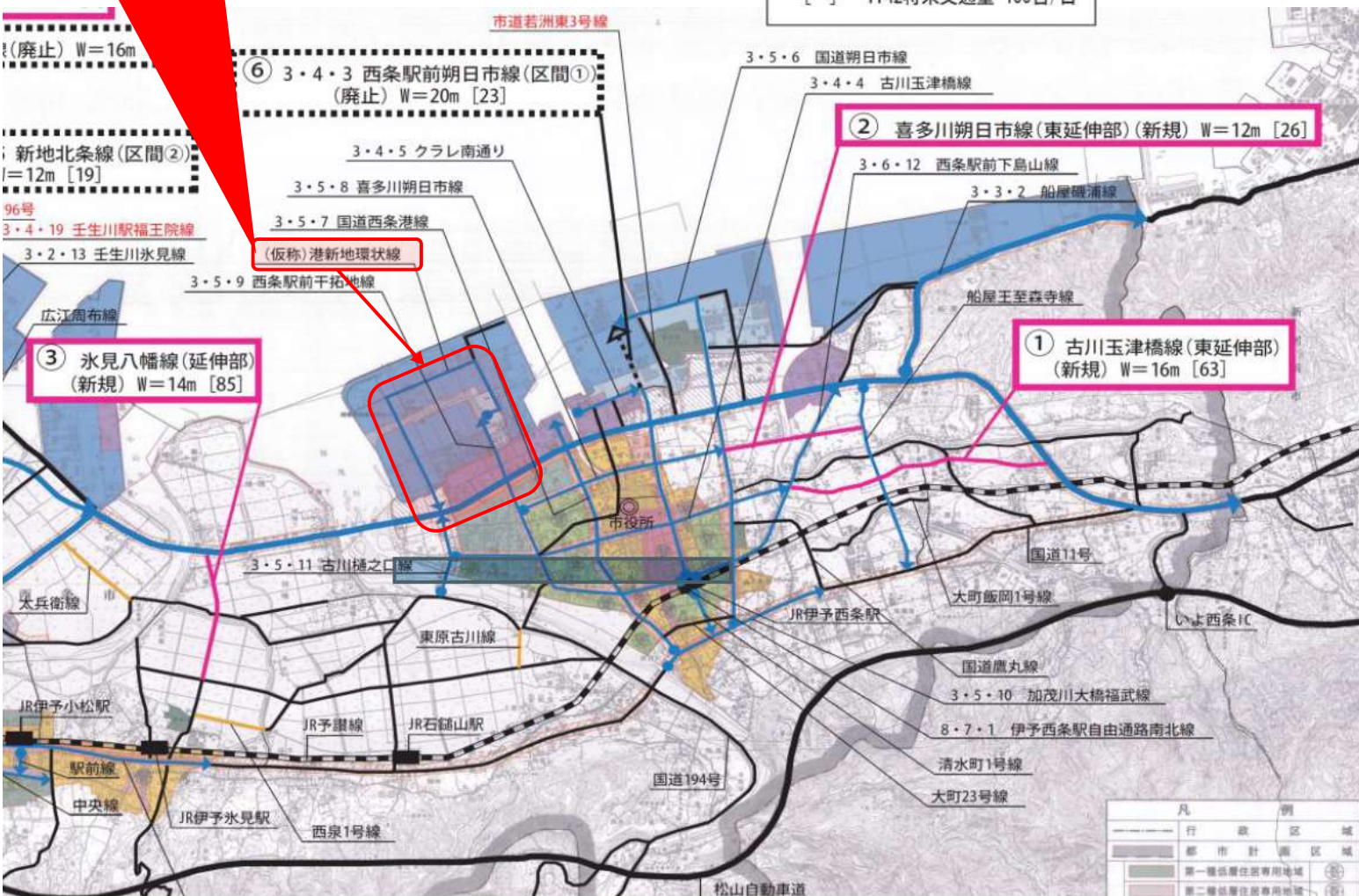
西条市内道路網整備計画

(西条地区抜粋)

一般質問で整備必要とした道都
(仮称) 港新地環状線

凡例

- ・見直し対象路線
- 存続
- 廃止
- 新規
- 変更
- 今後検討路線
- [] H42将来交通量 100台/日



令和7年6月 定例会一般質問

質問①

現在、西条市が企業誘致先として唯一案内できる工業用地は港新地です。土地の所有者が民間であるため、西条市が事業者と地権者との仲介役となっており、交渉できないのでしょうか？

また、土地の売却に至らないケース、売却時の税金の負担が挙げられます。企業側には奨励金制度があるように、仲介業務や売買における税負担の軽減策の導入はどのように考えていますか？

答弁①

西条市としては、民間の契約交渉への関与はできないが、積極的な支援を行います。また、本年度から企業誘致におけるワンストップ窓口を産業振興課に設置し、情報提供や伴走支援をしています。

地権者の税負担については、現時点では実施の考えはありませんが、今後、メリットとデメリット、要件や手続き、規模等に係る他市の事例等も踏まえ調査、研究します。

質問②

港新地は海拔ゼロメートル地帯で、南海トラフ巨大地震などのおそれから工業用地としては適地でないといわれています。2025年3月に南海トラフ巨大地震の被害想定が見直しされ、県内での死者数は倍増、本市の浸水面積は約1.5倍とされました。

逆に、この地域を敬遠するのではなく、素早く国・県へ沿岸部の護岸強化の要望をし、沿岸部の強化を実現するべきではないでしょうか？

答弁②

2025年5月に愛媛県知事に対して、港新地及び禎瑞地区を浸水から守る海岸保全施設の整備を早急に要望しました。

回答として、現在実施中の今在家地区防波堤の耐震化工事を踏まえながら、禎瑞地区などの事業化の可能性について検討を進めたいとの事でした。引き続き国・県に要望活動を実施します。

質問③

港新地の道路事情は、実際にヒューム管の橋の上を大型車が通行したり、通行時には離合や右左折に苦勞するような状況です。加えて、港新地は約200世帯余りの方が住まわれており、騒音や振動によりクレームがあります。

港新地への新たな道路の整備についてどうでしょうか？

答弁③

西条市の目指すべき将来都市像を実現するために、平成23年度に西条市内道路網整備計画を策定し、道路整備を進めています。当該計画には、産業道路から港新地地区につながる新たな道路といたしまして（仮称）港新地環状線が位置づけられています。

しかしながら、港新地地区は南海トラフ巨大地震がの被災で課題は多くありますが、工業専用地域で、既に多くの企業が進出しているため、環状線の整備は必要と考え、事業実施に向けて検討して行きます。

質問④

市道港新地3号線の道路改良は、令和5年度から令和9年度に総事業費約1億円をかけて、道路の幅員を広くする改良工事をしています。ちょうどこの道路沿いには、熊谷組と鉄鋼メーカーで、設備投資額30億円となる木質ペレット製造工場が令和8年7月に完成し、10月に販売と公表されています。

工場完成は、当初計画から約2年遅れの見直しですが、更に令和9年度の道路改良の完了では遅いのではないのでしょうか？

答弁④

現在事業中の市道港新地3号線は、市道沿線への企業進出に伴い、大型車両などの交通量が大幅に増加することで、近接する通学路に影響があり、令和5年度から交差点改良を含む道路改良に着手しています。現在の事業進捗状況は25パーセント程度で、企業が操業を予定しております、令和8年10月までには進捗率が70パーセントとなる見込みです。操業時に未整備となる区間については大型車両などが擦れ違えるように、暫定施行を行う予定としており、令和9年度末の完了予定が少しでも前倒しできるよう努めます。



【②市道港新地3号線道路改良】

- ・本路線は工業専用地域にあり、周辺にはコンクリート製品製造会社等が立地するなど、幅員が狭小であるにもかかわらず大型車両が多く通行している。
- ・今回周辺に新たな脱炭素バイオマス燃料製造企業が進出するため、更なる通行量の増加が見込まれており、近接する通学路にも影響が出るのが懸念されている。
- ・そのため、法面等の官地を利活用し、道路幅員を広くすることで重点的に安全性を確保するものである。

事業期間：令和5年度～令和9年度

総事業費：約1億円

R6事業：3,200万円、延長58m、車道幅員8.7m